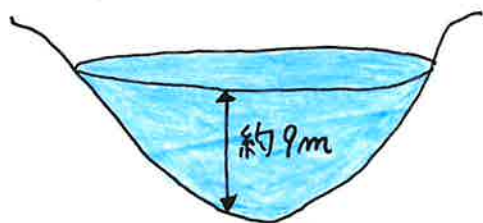


ドラゴンアイはこうやってできる

(んじやないかなあ...といわれています。)

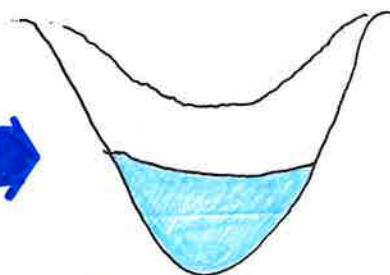
① 6月中旬～11月上旬の
鏡沼は水深約9mの
すり鉢形の沼です。



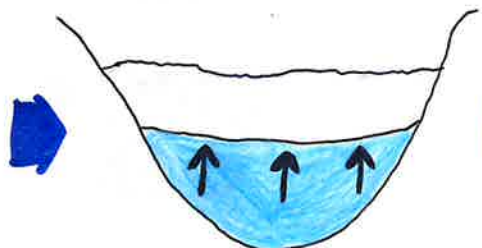
② 冬になると沼の水は
凍り、沼の上には雪が
積もります。



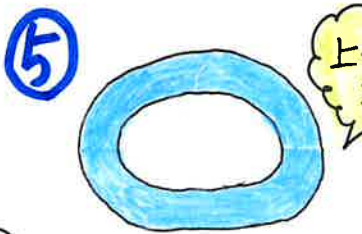
③ 3月中旬頃から少しずつ
雪解けが始まります。



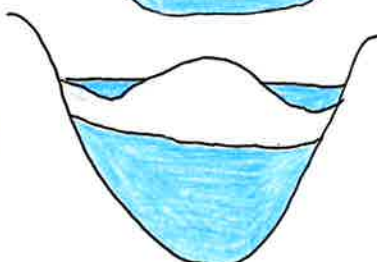
④ 4月に入ると、水の量が
多くなり、フタになっている
氷の層に浮力が加かって
持ち上げられます。



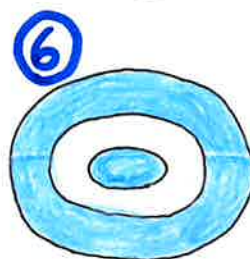
このころ、フタになっている
雪と氷の層が薄い方が
均等に浮力が加かるらしく
きれいな形のドラゴンアイが
できます。



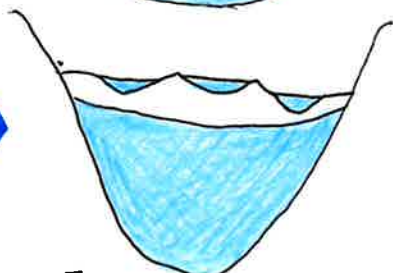
上から見ると
こんな感じ



持ち上げられた氷の
ふちの部分の雪解けが
進んで氷が輪のように
溜まります。



最後に中心の盛り上がった
氷が解けて氷が溜まる
『開眼』!! 完成です。



日当たりには フキノトウがいっぱい



日本のフキノトウは淡い緑色ですが、
バターバー (Butterbur) とロハはれる
セイウフキはなんと **ピンク** の花を
咲かせるんです♡ 大きな葉っぱを
バターを包むのに使ったのでバターバーなんですよ♡



オオシラビソがピンチニ

▼まだ半分以上雪に埋もれています



ハチ番平の山々にはオオシラビソ(アモリトドマツ)がたくさん自生しています。いっぱいあるので見過ごしがちですがオオシラビソは世界でも日本の限られた山にしかない樹木なんです。実をつけるには30年~50年かかるといわれています。みんなで大切に守りたいですね。

ハチ番平はまだ無事...

でも、樹氷で有名な蔵王では今、オオシラビソがどんどん枯れているんです(><) 2013年ころ、トウヒツツリヒメハマキというガの幼虫が葉っぱを食べて木を弱らせました。その後気温の高い年が続いたことで、今度はトドマツキクイムシが大発生。幼虫が木に穴を明け、虫に付いている雑菌が繁殖して木を枯らしてしまっただです。



わーい!!!ってガんじのオオカキノキ

陽ざしをあびて
たんたか
うれしそう♪



6月になると登山道をアジサイに似た白い花で彩るオオカキノキは冬芽(冬を越すための翌年の新芽)の形には特徴があって、ガイドの間では『ウルトラマンの木』なほど口ずかれています。(シュワッチ!してるみたいたから) 春になると少しあたたかくなってくると冬芽が開いてウサギの耳のような形になります。



これは葉芽
(葉っぱによる芽)

こちらは花芽
(お花が口を開く芽)

お花が口を開く準備は冬になる前から始まっているんですね

